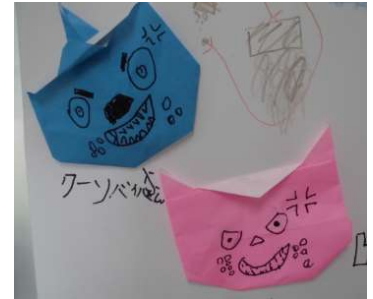




河小だより

四日市市立河原田小学校
第20号 令和4年2月4日

昨日、2月3日（木）は節分でした。節分とは季節の始まりの日の前日のことで1年に4回ありますが、立春の日の前日をさすことが多いです。今年は昨日でした。節分の日には、「鬼は外、福は内」と言いながら豆をまき、豆を年の数だけ食べて、厄除けを行うことが一般的です。でも「鬼は内」と言ったり、「福は内」しか言わなかったりする地方や寺社も多いようです。また、豆だけでなく、イワシや柊（ひいらぎ）などを使って厄除けをする地方もあります。今では全国的になっていますが、恵方巻を食べる風習はもともと大阪だけにあったようです。どのような「いわれ」や経緯があってそのようになっているのか、調べてみるとおもしろいかもしれませんね。



暦の上では今日から春です。まだまだ寒い日もあるでしょうが、これから暖かい春に向かって、季節が動き始めます。今の学年のまとめを進めるとともに、次の学年への準備をしていく時期です。次のステージで「なりたい自分」の姿をイメージし、「なりたい自分」になれるよう、今できることを丁寧にやってみましょう。

● 8の字チャレンジ

始業式以降、学級全員で協力し、2分間で何回跳べるかに挑戦する「8の字チャレンジ」の取組を行ってきました。最初のうちはなかなかタイミングが合わず引っかかることが多かったのですが、練習を重ねるうちに跳べるようになり、縄を回す速さもどんどん早くなってきました。子どもたちもそのことを実感し、さらに記録が伸びるように声をかけ合ったり、工夫したりする姿が見られました。一体感、成就感を味わったようです。1年生や2年生は自分たちで縄を回すことが難しいので、5・6年生がお手伝いをしていました。最初は縄を回転させるのではなく、下の方で揺らすようにして跳ぶ練習を行っていましたが、日を追うごとに跳べるようになり、上級生とともに喜んでいました。短い期間でしたが、子どもたちには自信になったようです。



● 避難訓練 「天災は忘れたころにやってくる」

1月28日（金）の20分休みに「この後、命に関わるような大きな揺れがきます。命を守る行動をとってください。」と突然の放送が入り、避難訓練が始まりました。春以来で、しかも予告なしの避難訓練。子どもたちは自分の命を守る行動がとれるのだろうか心配しましたが、きちんとした行動がとれました。運動場にいた子どもたちは集合も早く、先生が来るまでに「●年●組の子は、ここに集まって」という声もあり、自主的に整列しようとする姿もありました。



日本は地震大国です。いざという時のために、避難場所や非常用持ち出し袋の確認など、防災についてご家族で話す機会をお持ちください。備えあれば憂いなしです。

【お知らせ①】

- 2月14日（月）に予定していました6年生の社会見学（県外）は、3月1日（火）に延期します。行先についても感染状況を見ながら検討を進めていきます。
- 東伸熱工株式会社様から市内小学校に写真集「鈴鹿のかもしか」を寄贈していただきました。図書室に置きますので、機会があればご覧ください。

● 誠実な取組ができる人に…、そして、まわりへの心遣いができる人に…

だいたい毎朝、教室を回って子どもたちの表情、授業の様子、教室の雰囲気などを見ています。その際、トイレのスリッパも目に入ってきます。4～6年生の教室がある3階の女子トイレのスリッパは、いつもきれいに整頓されています。その様子を見るたびに、下の詩が頭に浮かびます。

はきものをそろえると心もそろろう　心がそろうとはきものがそろう
ぬぐどきにそろえておくと　はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら　だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと　世の中の人の心もそろうでしょう

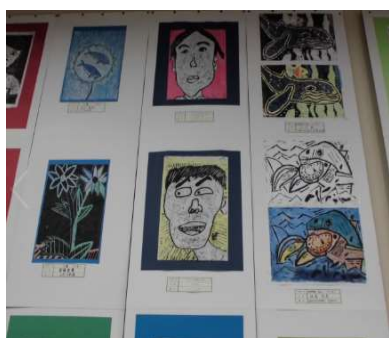
この詩は、円福寺の住職、藤本幸邦さん（ふじもと こうほう 1910年～2009年）が作られたものです。はきものをそろえること、つまり脱いだくつやスリッパをそろえると、心がそろうと書いてあります。なぜでしょう？ 私は次のように考えます。

脱いだくつをそろえるには一度止まって振り返り、しゃがんでくつを手に取り、そろえる必要があります。つまり、前に進みたいけど、立ち止まり、進行方向とは逆向きに振り返らなければなりません。この一手間を丁寧に行うことで心に落ち着きが生まれ、心が整い、心がそろうのだと考えます。また、「はくどきに心がみだれない」のは、次のように考えます。はくどきにくつがそろっていれば、すっとはくことができます。何かの目的に向かって進もうとしたときにくつをそろえるという動作をしなくても、滑らかに進むことができます。つまり事前に次に向けての準備をしておくことで、スムーズに次の動作やステージに進むことができ、心がみだれないわけです。そんな「心がそろい」「心がみだれない」心穏やかな状態を、自分一人だけでなく、まわりの人にもおすそ分けしようという内容の詩だと考えます。

はきものに限らず、心を落ち着け、丁寧に取り組むことはとても大切です。河原田小学校の子どもたちには、何事にも丁寧で誠実な取組ができる子どもたちになってほしいと願っています。また、まわりへの心遣いや気遣いが、さりげなくできる子どもたちになってほしいとも願っています。さらに、その気遣いに気づける人にもなってほしいとも思います。3階の女子トイレのスリッパのように、学校中の心がそろうよう、子どもたちの成長に関わり、見守りを続けていきます。

令和3年度 第58回 三泗小・中学校美術展 出品者 紹介

1年	綿谷	さん	江本	さん	2年	石崎	さん	市川	さん
3年	田中	さん	伊藤	さん	4年	川喜	さん	小田	さん
5年	金城	さん	赤松	さん	6年	鎌田	さん	坂倉	さん



【お知らせ②】

●三重県教育委員会学力向上推進プロジェクトチーム作成の「家庭学習の習慣化を～全国学力・学習状況調査の結果から見えてきたもの～」というYouTubeが昨年の12月にアップされました。三重県の子どもたちは、全国と比べ、平日の学習時間が短く、テレビゲーム等の時間が長いという特徴があります。本校の子どもたちも同じような傾向があります。その改善に向けての動画ですので、お時間があるときに、ぜひご覧ください。

